



長良川研究G



千曲川・信濃川研究G



筑後川研究G



狩野川研究G

第25回

河川生態学術研究発表会

CPD認定
5.4単位
(会場参加の場合)

参加
無料

令和5年11月2日(木) 10:30 ~ 17:30

ハイブリッド形式にて開催予定

- ・会場【月島社会教育会館】：定員40名
- ・Zoom：定員500名

※Zoom参加の場合、ポスターセッションは参加できません。

※土木学会以外の団体に提出する場合の方法等は提出先団体に事前にご確認ください。他団体が運営するCPD制度に関する内容については回答いたし兼ねます

河川生態学術研究会は、生態学と河川工学の研究者が共同し、河川における生態系の解明とその上に立った河川管理について研究、議論するとともに、次世代を担う研究者を育成することを目的としています。

現在、個別の河川を研究フィールドとした4つの河川別研究グループ（長良川、千曲川・信濃川、筑後川、狩野川）、若手を主体とした横断的なテーマで研究を進める2つの総合研究グループが活動しています。

この度、応用生態工学会との共催により、4つの河川別研究グループが一同に会して研究成果を発表し、河川生態の最新の知見を共有するとともに、幅広い意見交換を行う場として研究発表会を開催いたします。

この研究発表会が、河川生態の研究およびその活用の充実、発展の機会となるよう、研究者、現場技術者、NPOなど、多くの皆さまのご参加をお待ちしております。



プログラム

10:30	開会挨拶	河川生態学術研究会委員会 委員長 中村 太士 (敬称略)
10:45	研究グループの研究発表 (口頭発表)	<ul style="list-style-type: none"> ・研究発表《長良川研究G 代表 萱場 祐一》 ・研究発表《千曲川・信濃川研究G 代表 箱山 洋》 ・研究発表《筑後川研究G 林 博徳》 ・研究発表《狩野川研究G 代表 塚越 哲》
12:05~13:05	昼食	
13:05	ポスターセッション (裏面参照)	
14:15	総合討議	コーディネーター：狩野川研究G 代表 塚越 哲 パネリスト：狩野川研究グループ
14:50	話題セッション：流域管理とネイチャーポジティブ (仮題)	島谷 幸宏 (熊本県立大学特別教授)、中村 太士 (北海道大学大学院教授)、中村 圭吾 (リバーフロント研究所主席研究員)、国土交通省 水管理・国土保全局 河川環境課
16:50	政策提言の手交	河川生態学術研究委員会 委員長 中村 太士 (説明：政策提言ワーキンググループ座長 萱場 祐一)
17:15	閉会挨拶	応用生態工学会 会長 占部 城太郎 国土交通省 水管理・国土保全局 河川環境課

主催 河川生態学術研究会
(公財)リバーフロント研究所

共催 応用生態工学会

お問い合わせ 河川生態学術研究会事務局 (公益財団法人リバーフロント研究所内) 担当：内藤 (太)・渡邊 (祐)
電話：03-6228-3861、メール：rfc-event@rfc.or.jp

研究グループの研究発表・話題セッション

10:45~12:05 研究グループの研究発表

長良川研究グループ / 代表 萱場 祐一	10:45~11:05
・気候変動と流域治水シナリオに基づく生物多様性評価とハビタット管理手法の提案	萱場 祐一
千曲川・信濃川研究グループ / 代表 箱山 洋	11:05~11:25
・On the importance of habitat continuity for riverine ecosystems and related restoration measures	箱山 洋
筑後川研究グループ / 代表 鬼倉 徳雄	11:25~11:45
・気候変動下における災害復旧事業で考えるべき課題 ～H29年7月九州北部豪雨災害復旧事業の課題とR5年7月九州北部豪雨災害の速報～	林 博徳
狩野川研究グループ / 代表 塚越 哲	11:45~12:05
・流況変化に対する河川-海洋沿岸生態系の応答-狩野川水系における解明と生態系保全策-	塚越 哲・加藤憲二

13:05~14:05 ポスターセッション

千曲川・信濃川研究グループ / 代表 箱山 洋	
・On the importance of habitat continuity for riverine ecosystems and related restoration measures	箱山洋
・信濃川の魚類多様性と環境の関係：生息地連続性の理解に向けて	児玉紗希江 et al.
・A local scale metabolic assessment of epilithic biofilm from the Chikuma River and tributaries	Alessandra Cera et al.
筑後川研究グループ / 代表 鬼倉 徳雄	
・筑後川IG研究概要：平成29年7月九州北部豪雨のインパクト、その後の回復と河川改修の影響	鬼倉徳雄
・種の保存法指定種セボシタピラの試験放流と環境DNAを使ったモニタリング	十河雅樹・鬼倉徳雄
・ミトコンドリアDNAから見た個体群回復プロセス：タカハヤ、ヨコエビを事例に	中野一樹・Joana Joy Huervana・栗田喜久
・筑後川中流平野の支川改修が筑後川本流のハイドログラフに与える影響	徳永茉咲・林博徳
・矢部川廻水路における魚類分布と物理環境	山崎庸平・林博徳・鹿野雄一
・筑後川における環境DNA定量メタバーコーディングを用いた九州北部豪雨後の魚類群集の回復過程のモニタリング	乾隆帝・赤松良久・中尾遼平
・筑後川における環境DNA定量メタバーコーディングから見出された九州北部豪雨後の魚類各種の生物量の変化	塚田進之介・村上亜澄・乾隆帝・赤松良久・中尾遼平
狩野川研究グループ / 代表 塚越 哲	
・流況変化に対する河川-海洋沿岸生態系の応答-狩野川水系における解明と生態系保全策-	塚越哲・加藤憲二
・狩野川放水路の洪水分派に伴う河道形態の変化	五三裕太・知花武佳
・狩野川流域における地表水・地下水交換フラックスに関する検討	森康二
・狩野川水系の水生昆虫における本流・支流間での移動分散推定：遺伝構造から紐解くSource-Sinkの関係性	谷野宏樹・竹中將起・岡本聖矢・東城幸治
・狩野川の流況変化が駿河湾沿岸の一次生産と食物網に及ぼす影響	岩田智也
・狩野川放水路出口における二枚貝と化学合成細菌の共生	佐藤慎一

14:50~16:50 話題セッション

テーマ：流域管理とネイチャーポジティブ

<コーディネーター> 島谷 幸宏 (熊本県立大学 特別教授)
中村 太士 (北海道大学大学院農学研究院基盤研究部門森林科学分野 教授)
<パネリスト> 中村 圭吾 (公益財団法人リバーフロント研究所 主席研究員)
国土交通省 水管理・国土保全局 河川環境課

(敬称略)

参加申し込み

下記URLまたはQRコードにより、お申込み下さい。

●Zoom参加 (オンライン参加)
<https://forms.gle/1oPJPhEpb3hnb2oF8>

●会場参加
<https://forms.gle/oVkeX6PajypytJZY7>

Zoom参加



会場参加



河川生態学術研究会の詳細はこちらをご覧ください。
「河川生態学術研究会パンフレット第19版」
https://www.rfc.or.jp/seitai/seitai_pamph_19.pdf

申込締切 10/26迄

お問い合わせ 河川生態学術研究会事務局(公益財団法人リバーフロント研究所内)担当:内藤(太)・渡邊(祐)
電話:03-6228-3861、メール:rfc-event@rfc.or.jp